

セントー便り

〒892-0846
 鹿児島市加治屋町5-5
 日本キリスト教団鹿児島地区
 鹿児島キリスト教センター
 TEL (099) 227-1152
 FAX (099) 227-1152

2009年 初春

シリーズ
この一冊

『命のパンゆえに』
 聖書の殉教者

ウイリアム・ティンダル
 栗栖ひろみ著
 教会新報社



尾崎 和男
 鹿児島教会牧師

皆さんはウイリアム・ティンダルという名をご存知でしょうか。ティンダルは一六世紀初頭、はじめて聖書を英語に翻訳した人です。ルターと同じ(本書にはルターと出会う場面も少しですがあります)宗教改革の時代に活躍(暗躍)しました。当時、聖書の原典であるギリシア語から翻訳が許されていたのは唯一ラテン語しかありませんでした。聖書をギリシア語、ラテン語以外の言葉にすることは、高尚な神の言葉を一般民衆の汚れた言葉に貶めることであり、神に対する冒瀆とみなされてきました。そのような行為をした者は異端者として火刑に処せられたのです。ギリシア語とラテン語は特別な学問を修めた一部の特権階級の人たちだけのものであり、民衆にとつて神の言葉は遠い存在でしかありませんでした。この本はそのような時代に、命懸けで聖書を英訳、出版したティンダルの半生をドラマチックに描いています。

子のウオルシ二世の家庭教師として雇われていました。まだ幼いウオルシ二世は母親を不幸な事件で失い、身も心もすっかり病んでいました。夜中に屋敷を抜け出しては一人で庭にある亡き母の墓の前をさまよい歩くのでした。ティンダルはその子に母親は天国のイエス様のもとで安らいでいることを教え、聖書の言葉を語って聞かせました。すると、少年の心は落ち着き、様子が変わっていったのでした。そのことがきっかけでティンダルは、聖書の言葉が単なる文字ではなく、生命をもつたものであることを知ったのです。それ以来、ティンダルは聖書の言葉を誰にでも分かる言葉(英語)にし、街角で人々に語り掛けるようになり、毎日汗水たらして働いている百姓たちに聖書の言葉を語りました。重労働に疲れ切っていた彼らの目は聖書の言葉を聞くと、次第に澄み渡っていき明るく輝き出すのでした。ところが、ティンダルが聖書英訳の仕事に打ち込めば打ち込むほど、彼を異端者として迫害し、その仕事を邪魔しようとする人々も出てきます。やがて権力者たちの知るところとなり、国家をあげて懸賞金を掛けての迫害となつていきました。しかしその一方で、ティンダルの働きを理解し協力する人たちも現れます。ティンダルは住むところも追われさまよいますが、協力者に支えられ聖書の英訳を完成させました。しかし、この印刷屋も政府から税まかれるような仕事を引き受けてはくれません。しかし、ここでも神の奇しき御業によりふさわしい

協力者が与えられ、ついにティンダルの英訳聖書は出版の運びとなります。執拗な迫害により多くの人々の血が流されました。ティンダルに協力した人々はことごとく命を犠牲にしてその事業を支えたのでした。最後には遂にティンダル自身も捕らえられ、火刑台に上らされていきました。

そのようにして世に出たティンダルの英訳聖書は、彼が火刑に処せられた一五三六年からおよそ半世紀ほどたった一六〇四年に英国王ジェームズ一世によりはじめて公に認められることになりました。世に言うキング・ジェームズ・ヴァージョン(欽定訳)です。この英訳は日本における文語訳聖書のように、荘厳で格調高い文体から、口語訳の普及した現在も多くの愛読者を持ち続けていると言われています。

今日、聖書は世界中の言葉に翻訳され、書店に行けば千数百円で売られています。ところが、聖書が私たちの言葉で読めるようになるためにはどれだけの苦労があり、血が流されたことでしょうか。「聖書の言葉は人間の魂と肉体を同時に養うものである」。この信念の下、聖書英訳に命を捧げた一人の男と彼を支え続けた人たちの物語であり、私たちももつと聖書の言葉(神の言葉)を信頼していきましょう。と思わされる感動の一冊です。

ただ残念なから、この本は現在、絶版になつていて、なかなか手に入らないようです。



私の好きな御言葉



作井 素子
 (鹿児島教会)

え「まじわり」特別記念号を開いていると、一九八〇年までの教会の出来事は、『創立百年記念誌』に記されている」とある。私は、一九八〇年の十二月に洗礼を受けたことを改めて思い出した。

子供の頃、種子島で近所の教会へ兄弟姉妹、友達と日曜学校を楽しみに通ったのは別に、鹿児島教会の礼拝に出るようになって、五年目のことでした。その時出会った「わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります」(ヨハネの手紙4-10)という御言葉に大きな安心感を覚えた。

今年の一月二十五日の記念礼拝には、棟居元牧師夫妻を始め、多くの方々が、久々に鹿児島教会に集まってくださった。昔の青年会の方々も、当時の面影があり、百三十年年の記念誌も、どの稿も興味深く読ませてもらった。

また、好きな御言葉に出会うように、尾崎牧師と共に、鹿児島教会百五十周年を目標に、教会生活を送りたいと思つていま

新刊書案内 販売中 (2月)



No.	書名	著者	出版社	定価
1	万物の救済	近藤 勝彦	教文館	1,995
神の壮大な救済史を背景にして語られた27の説教。信仰を求めるすべての人へのメッセージ。				
2	聖書のにんげん模様	堀 肇	マナブックス	1,260
悩み、憎しみ、愛し、笑い…。聖書には時代を生きた人々のドラマがある。				
3	遠くて近い道 —聖書と人生—	小野 経男	新教出版社	1,995
はるか遠くにある存在は実は身近にあった。真摯な言語学者である著者による飽くなき探究精神。				
4	新約聖書の礼拝	山田 耕太	日本キリスト教団出版局	2,520
現代の礼拝の議論のために新約聖書学の立場から客観的・包括的視点を提供する				
5	マルコによる福音書	大澤 秀夫	日本キリスト教団出版局	1,050
聖書に聴きながら歩む人々の輪が広がっていくために用いられることを願って書かれた一冊。				
6	ホスピスのこころを語る	柏木哲夫・栗林文雄	一麦出版社	2,310
たった一人の患者のために歌うことの意味は何なのか。体験をとおして語られる対談が感動を与える。				
7	説教批判 説教分析	加藤 常昭	教文館	3,780
日本を代表する説教学者である著者が積み重ねてきた〈説教批判 説教分析〉理論の集大成。				
8	ようこそ天の国へ	晴佐久 昌英	教友社	1,890
晴佐久神父説教集IV。神の愛を告げる「福音宣言」がこの世を救い、さらなる尊い世界を造り出す。				
9	イエスとは誰なのか?	マイケル・グリーン	地引網出版	1,260
今から二千年前に十字架にかかったこの一人の男はいったい誰だったのか。神なのか? 人なのか?				
10	喜び祝い、喜び踊ろう	近藤 勝彦	教文館	1,995
主イエス・キリストの生涯に学び、聖餐にあずかる意味を知る18の説教。				
11	まだひと言も語らぬ先に	佐々木 勝彦	教文館	1,890
詩篇作者であるダビデの物語と古今の解釈を踏まえ、詩篇の読み方・味わい方をわかりやすく手引きする。				
12	人間学 —神学的考察—	W. パネンベルク	教文館	8,295
人間存在について問う永遠のテーマを人間理解を基礎として、神学的視点から総合的に再解釈する壮大な試み。				
13	ボンヘッファーとキング	J・ディオティス・ロバーツ	日本キリスト教団出版局	4,410
ナチズム、人種差別に抵抗し、共に39歳の若さで斃れた二人の生涯、出会い、思想遍歴を対比させる。				
14	み前にそそぐ祈り	加藤 常昭	キリスト新聞社	2,520
慰めに生きる教会の祈り、キリスト者の日々の祈りをここに!				
15	いま伝えたい大切なこと	日野原 重明	NHK出版	1,155
96歳の今だからこそ伝えられることがある。美しい世界のために。すべてのいのちのために!				

備え付け図書 (2008年12月~2009年2月備付) ご利用ください

信仰・修養 『移住者と共に生きる教会』—谷 大二 他 『イエスはなぜわがままなのか』—岡野昌雄
『子どもとの宗教対話』—F、シュヴァイツァー 『新約聖書よもやま話』—伊藤明生
『人生を変える力』—リック・ウオレン 『聖書の女性50人』—ユニス・F・プリディ
『うつになった聖徒たち』—ブレンダ・ポインセット 『主は私の牧者』—菅 健治
『魂にふれる50の天使』—アンゼラム・グリューン

教 育 『メサイヤは何を歌うのか』—家田足穂

聖書注解 『ヨセフと新約聖書』—S.メイソン 『喜びの手紙』—蓮見和男

神学・社会学 『宗教改革者の聖餐論』—赤木善光 『観想的生活・自由論—ユダヤ古典叢書』—土岐健治
『説教黙想集成 2.福音書、3.書簡』—加藤常昭編訳 『使途パウロ』—佐竹 明

歴 史 『キリスト教 思想史入門』—アリストアー・E・マクグラス

『ザビエルにはじまった 日本の教会の歴史』—結城了悟

児 童 書 『星にみちびかれて』『ダビデとゴリアト』『ダニエルのなぞとき』『十字架の道』

—日本聖書教会 (みんなの聖書絵本シリーズ)

『カミラちゃんのおともだち』—文・絵: カーリ・ヴィンイエ

ビ デ オ 『ザ・ホープ』—いのちのことば社 『ローマ帝国に挑んだ男—パウロ』—いのちのことば社

【鹿児島教会】

牧師 尾崎 和男

二〇〇八年度は新しい牧師を迎えた年であり、また教会創立一三〇周年であり、前身の山下町教会・江南教会合同六〇周年であり、私たちの教会にとって記念すべき年になりました。辛く苦しい出来事もありましたが、その中でも主がイスラエルを荒野において鍛え導かれたように、主の御守りと御導きの確かさを実感することができました。これからも主を礼拝し、地域に伝道する祝福の源たる教会として、新しい歴史を教会員が一つとなつて築いていきたいです。

【鹿児島加治屋町教会】

牧師 飯田 輝明

2008年度はお二人の伝道師の先生を招き、当教会にとって創立130年を迎えた大きな節目の年度でした。6月に創立130周年記念礼拝、2009年2月には日野原重明先生をお迎えし、特別伝道記念講演会を開催いたしました。記念礼拝には地区内諸教会より励ましのお言葉をいただき、また、日野原先生のお言葉には340名程の方々が出席下さいました。喜んで教会に足を運ぶ出席者の顔を見、将来の祝福の予兆を感じました。新年度も、先輩方が愛し、汗を流し、祈りを傾けた教会にさらなる祝福が注がれること、また信徒一人一人が過去に目をとめ、現在の様々な課題を見据え、未来への一歩を踏み出すことを願っています。夏にはパイオルガンを設置します。旧オルガンを解体し、一ヶ月かけて新オルガンを設置します。30年間の教会員の願いと祈りが実を結ぶ瞬間です。夏にパイオルガン奉献礼拝、10月17日(土)

には松居直美さんを招きパイオルガン奉献演奏会を計画しています。新しい器がさらに当教会の礼拝、宣教の業に豊かに用いられますように、会員一同祈りをもって新しい年度を歩みたいと願っています。

【阿久根伝道所】

牧師 奥水 正人

*2009年度年・月標語
『実に、人は心で信じて義とされ、口で公に言い表して救われるのです』
(ローマ10章10節)

2009年度、阿久根伝道所は創立57周年、めぐみ幼稚園は50周年を迎えます。「主が私を大いに祝福し、私の地境を広げてくださいますように。御手が私と共にあり、災いから遠ざけて私が苦しむことが無い様にしてくださいます様に(ヤベツの祈り)」
新年度も主にある交わりと歩みを進めていけるように願っています。

【川内教会】

牧師 日下部 遣志

・教会学校の充実
現在毎週20人近い子どもたちが集まっています。礼拝の後、活動の時間が楽しいようです。

①ゲームの日 ②作って遊ぶ日 ③食べる日 ④体を動かす日、などがあります。先日は、餃子の皮にピザソースを塗り、コーンやハム、チーズを各自トッピング。ホットプレートで焼いた「餃子ピザ」が大好評でした。更なるネタ仕込みを…

・家庭礼拝の充実

高齢や病気のため、礼拝出席困難な方が増えてきました。そこで定期的に各家庭を訪問し、小礼拝を行っていく。教会での礼拝だけが礼拝でなく、信仰者が週に一度は礼拝を捧げることができたらと考えているところです。
・幼稚園の充実

幼稚園の子どもたちが豊かな成長へと導かれるため、環境を整え、教師たちと一緒に、神さまの恵みを共に体感できる保育を目指していきたいです。

【串木野教会】

牧師 藤田 房二

今年度も皆様方の祈りとご支援により教会の歩みを進められたことを感謝いたします。国内外共に様々な問題が浮上している現在ですが、新年度も主に信頼し、互いに祈りのうちに励まし合い、また社会的に弱い立場の方々を覚えて歩んでいきたいと思えます。

幼稚園も神の導きにより、新学期をスタートできる恵みを感じたいと思います。この様な時代、一番後回しにされるのが何の発言力もない幼子です。主が幼子に聴けといわれた言葉を念頭に、キリスト教保育をすすめていきたいと思えます。

また、原子力発電所3号機増設が現実味を帯びてきました。事故が起きれば私どもは、あつという間に被爆します。(数十分遅れで鹿児島市も然り)心に不安を抱えたままの生活です。地球温暖化対策CO₂削減の世界的キャンペーンがはられ、これを理由に世界中に原発増設の動きです。このキャンペーンの大きなスポンサーのほとんどが原子力関連会社であるとも聞いています。神に祈り、良き道が与えられるよう願っています。

【指宿教会】

牧師 伊藤 嘉朗

二〇〇九年度の定期教会総会を、四月十九日に予定しています。今年役員選挙の年になりますが、定数やら年齢やらで少々やこしい問題が起っており、そこで、それらの問題について自由に話し合ってみましょうということ、三月一日には教会懇談会を開くことにしています。

その他、耳が不自由になってきた方のために補聴器を何とか都合したいという声にも対応したいと思っています。

幼稚園の方は、相変わらず園児減少の傾向が続いています。新年度には教諭が一名、出産のために退職し、新人の採用が決まっております。たとい園児数がどんなに減っても運営体制の骨組みだけは崩さずにいきたいと願っているからです。新年度の教会標語は、この年もローズンゲンに導かれて「人間にはできないことも、神にはできる」(ルカ18・27)の予定です。

【国分教会】

牧師 日下部 克彦

今年度 国分教会は地区女性集会の当番会場教会でしたし、信徒大会も当教会の園実実兄が委員長ということもあって、両集会に教会員が積極的に参加し、信仰の良き学びと沢山の恵みをもたらすことが出来ました。特に女性集会のために教会員一人ひとりが祈りをもって準備・運営に当たることを通して、教会全体が大きく成長させられたように思えます。新年度は、今のところ教会として特別な集会を計画していませんが、今年度同様、ピクニック気分で生き生きと？地区の集いに沢山で参加したいと思っています。

礼拝後月1回昼食を共にしつつ行っているオリーブの会では、引き続き『教会生活の手引き 祈りの生活』(小野一郎著)をテキストに学ぶ予定です。祈拝会も出席者が増えたことは嬉しいのですが、良いか悪いか話が盛り上がりすぎて長時間になってしまう時もあります。オリーブの会、祈拝会、共に密度の濃い学びと交わりの時となればと願っています。

【志布志教会】

牧師 横山 潤

「志布志教会の今までとこれから」
小さな群れである志布志教会が、鹿児島

島地区、九州教区の皆様に、祈りのうちに支えて頂き、歩みを許されていることは、誠に感謝です。

これまで、度々の財政難、無牧の時を、この小さな群れが、皆様のお祈りお支えのうちに、人の思いを超えた、主なる神様の御働きによって守られ、のりこえてまいりました。

今、教区互助を受けてなお、地区の皆様にご支援を頂いてなお、大きな財政困難に直面しています。どのような対処が、今、神様から求められているのかと、共に祈りを合わせつつ、考え、話し合っています。

この時にあつて、実はここに、神様の祝福があるのだと信じております。地区の皆様に、変わらず祈りに覚えて頂いておりますこと、感謝です。

【鹿屋伝道所】 信徒 野元美佐子

「地区の皆様のお支えに感謝しながら」土曜日の朝、施設から帰宅すると純一郎は早速パソコンの前に座り週報作りに取りかかる。聖書とメッセージはまだ届いていないと、騒ぎ出す声に急ぎ立てられながら牧師に連絡を取る。牧師の来られない週は信徒の友・日毎の糧を参考に記事の中からメッセージを選び、讚美歌を捜す。初めの頃はちぐはぐな組み合わせだったが、この頃は皆が驚く程うまくいった。何もできなかつた頃を思うと、神の意志を感じる。様々な流れの中で、神が薄いベールを重ねる様に信仰の知恵を与えて下さった。文学や、言葉、音楽へのこだわりは自閉的な人特有だけど、伝道所ではプラスとなり、教会の役に立つ人間にして下さった。こんな純一郎に振り返られつつ野元美佐子さんを先頭に小谷さん、野元親子は日下部克彦牧師に導かれて、礼拝に集う。地区内の先生方にお越し戴き幸せな礼拝のひとつである。

スケジュール【2009年3月～5月】

10日(火)	聖句書道	13:30～15:30																					
13日(金)	鹿児島朝拝会	7:00～8:00																					
担当: 金井 進牧師 (日本ホーリネス教団鹿児島武教会)																							
3月	15日(日)	鹿児島地区委員会 15:00～17:00																					
	19日(木)	食料ディ委員会 13:00～ 鹿児島伝道協力会 14:30～16:30																					
	21日(土)	絵手紙の会 13:00～15:00																					
	24日(火)	聖句書道 13:30～15:30																					
	26日(木)	選択理論勉強会 19:00～21:00																					
	5日(日)	センター運営委員会 15:00～16:30																					
	9日(金)	鹿児島朝拝会 7:00～8:00																					
担当: 久保木 聡先生 (日本ナザレン教団鹿児島キリスト教会)																							
4月	11日(土)	鹿児島作曲協会 14:00～16:00																					
	14日(火)	聖句書道 13:30～15:30																					
	18日(土)	絵手紙の会 13:00～15:00																					
	23日(木)	選択理論勉強会 19:00～21:00																					
	25日(土)	三浦綾子読書会 14:00～16:00																					
	28日(火)	聖句書道 13:30～15:30																					
	8日(金)	鹿児島朝拝会 7:00～8:00																					
担当: 田淵 亮牧師 (日本バプテスト連盟鹿児島キリスト教会)																							
5月	12日(火)	聖句書道 13:30～15:30																					
	16日(土)	絵手紙の会 13:00～15:00																					
	23日(土)	鹿児島地区女性集会 (加治屋町教会)																					
	26日(火)	聖句書道 13:30～15:30																					
	28日(木)	選択理論勉強会 19:00～21:00																					
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>来館者</td> <td>貸出図書</td> </tr> <tr> <td>他教派</td> <td>92</td> <td>74</td> </tr> <tr> <td>一般</td> <td>126</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>市外教団</td> <td>12</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>鹿児島教会</td> <td>58</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>加治屋町教会</td> <td>153</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>441</td> <td>129</td> </tr> </table>				来館者	貸出図書	他教派	92	74	一般	126	0	市外教団	12	25	鹿児島教会	58	19	加治屋町教会	153	11	計	441	129
	来館者	貸出図書																					
他教派	92	74																					
一般	126	0																					
市外教団	12	25																					
鹿児島教会	58	19																					
加治屋町教会	153	11																					
計	441	129																					

(来館者・図書貸出 2008年12月～2009年2月)

鹿児島地区女性集会のお知らせ
開催日 二〇〇九年五月二三日(土)
開場 午前十時～午後三時
場所 日本キリスト教団鹿児島加治屋町教会

講演 I 『沖繩戦・強制集団死からキリストに生かされて』
講師 金城 重明先生
一九二九年、沖繩県渡嘉敷島生
キリスト神学大学院文学部
ユニオン神学修士課程卒業。
日本キリスト教団系満教会、首里
教会。沖繩キリスト教短期大学創
設(一九七五年)以来一九九四年三
月定年まで教鞭ととる。その間、
理事・副理事長・宗教部長・学長
を努める。現在名誉教授・評議員
・沖繩人権協会理事等を務める。

- ☆二〇〇八年度初冬号発行以降にセン
ター会員になってくださった方々を掲
載いたします。(2009年2月28日現在)
- 加治屋町教会**
前野恭子 平屋麻寿美
- 他教派**
山内千枝子 川下典子 寺村達郎
マウマウ・タン 兼子みどり
- 一般**
古江完治 大迫政彦 安田 舞
村木明広 片平雅子 富山ふじ子
☆いつもキリスト教センターの働きを覚
え、お祈りに加えていただいていること
また会員入会、献金をとおして支えてい
ただいていることに感謝いたします。
二〇〇八年度、献金をしてくださった皆
さんを掲載いたします。
- 献金者(順不同)**
早川耐子 福島節子 唐牛弘子
加藤敏雄 藤本直子 森谷素子
小島 新 松田瑞穂 梅北美智子
北元 瞳 原ゆみ子 田代道代
林 富美 黒崎宏子 田辺征一
功

- あとうがき**
- 二〇〇八年度も鹿児島キリスト教セン
ターの働きを覚え、お祈りとお支えをい
ただきましたことに感謝申し上げます。
世の中の流れと社会情勢の変遷はめまぐ
るしく、この鹿児島キリスト教センター
も運営方法の転換を求められています。
二〇〇九年度も様々な変化に対応しつづ
主にある歩み、活動を進めていければと
願っています。
- 横山 潤 大迫政彦 下高原孝徳
本野善信 清田勝義 堀口とも子
藤田正嗣 古賀珠江 島中良枝
秋山和子 尾辻妙子 高野睦子
平屋麻寿美 今柳田伊勢子
岸川公彦 屋敷尚紀 中国語講座
女性代表者会 ゴスペルフラ
鹿児島教会 加治屋町教会 朝拝会
鹿児島伝道協力会 選択理論勉強会
鹿児島作曲協会 絵手紙教室
三浦綾子読書会 食料ディ実行委員会
ギデオン協会 おつり献金 匿名